

【第10分科会】 「危機対応」
研究課題 様々な危機への対応と未然防止の体制づくり

1 分科会の趣旨

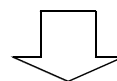
【研究課題の背景・現状】

- ◇危機的な状況を想定し、事件・事故の再発、未然防止を図るため、適切な対応ができる危機管理体制を確立する必要がある。
- ◇保護者や地域、関係機関との密接な連携・協働により、子どもの安全・安心を確保していく体制づくりに努める。

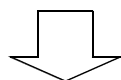
【研究課題解決の方向性】

- ◇様々な危機から子どもの生命と安全を守る対応の在り方と危機の未然防止のための具体的方策と成果を明らかにする。

過去6大会の成果と
前年度の課題



背景・現状を踏まえて、具体的方策と成果を明らかにする



2 研究の視点

- (1) いじめ・不登校等への適切な対応と体制づくり
 - ・各校の「いじめ防止基本方針」等に基づき共感的な児童理解と保護者への誠意ある対応を進める。協働して問題解決にあたる体制づくりを進める。
 - ・問題発生の兆しに対して学校全体で早期に対応し、子ども一人一人が自分は大切にされていると実感できるような予防的取組の推進に努める。
- (2) 高い危機管理能力の育成と未然防止に向けた組織体制づくり
 - ・子どもを取り巻く社会情勢の変化や教育課題を的確に把握し、教職員の危機管理意識や危機対応能力を高める取組を充実させる。
 - ・教職員が組織的に対応できるよう危機管理マニュアルや学校安全計画等の改善を図るなど、組織体制の整備をする。

3 「校長の果たすべき役割と指導性を究明する」ための協議の柱

- ① いじめ・不登校等への適切な対応と体制づくりはどうあればよいか。
- ② 高い危機管理能力の育成と未然防止に向けた組織体制をどのように構築するか。

第10分科会 「危機対応」 様々な危機への対応と未然防止の体制づくり

【視点①】 いじめ・不登校等への適切な対応と体制づくり

「いじめ・不登校等への適切な対応と体制づくりにおける校長の役割
～カリキュラム・マネジメントの視点をいかした実践的支援・サポートを通して～」

福岡県 広川町立下広川小学校 校長 堤 健 治

1 趣 旨

いじめ・不登校等は、どの子どもにも起こり得るものであることを十分に認識する必要がある。しかし、いじめ・不登校等の解決を図る組織活動は行ってきたものの、協働する時間の設定や関係機関と連携した課題解決の取組が不足していたのではないかと、本質的な課題解決を図るための「つながり」を強化した学校運営が不十分ではなかったかと反省している。そこで、課題解決を図る実践的支援・サポート体制を整備し、カリキュラム・マネジメントの視点で学校運営を行えば、同僚性の広がりとともに安全・安心な学校運営ができ、危機対応に強い学校づくりに資することができると考えた。

2 研究の概要

- (1) 広川町における学校規模による課題改善・解決方法の策定と具現化
 - (2) 「問題事象想定実践的研修」「カリキュラム・マネジメント研修」による実践的支援
 - (3) 「職務別サポート体制」「定期的対策委員会」「担任サポート体制」による個別の実践的サポート
- 以上のような内容で、研修による実践的支援及び個別対応による実践的サポートにより、いじめ・不登校等に対する①危機意識の高揚、②危機対応能力の向上、③PDCAサイクルによる課題改善・解決意欲の向上等が図られ、危機対応に強い学校づくりに資することができたことを発表する。

<メモ>

【発表内容に関すること】

○有効な取組

○疑問・改善

【自己の実践等に関すること】

◇「校長の役割と指導性」について、協議内容を簡潔にまとめると… 【キーワードかキーセンテンスで】

☆参考キーワード

授業力向上
危機意識

職員研修
同僚性

サポート体制
関係機関との連携

カリキュラム・マネジメント
PDCA サイクル

【視点②】 高い危機管理能力の育成と未然防止に向けた組織体制づくり

「安全・安心な学校づくりのための高い危機管理能力の育成と
危機の未然防止を推進する組織体制づくりを目指して」

青森県 八戸市立多賀小学校 校長 福士 良樹

1 趣 旨

学校が子どもたちにとって安全・安心に学ぶ場であるためには、危機の未然防止に努めるリスクマネジメントの工夫と、事件や事故が発生した場合に被害を最小限に抑えるためのクライシスマネジメントの充実が求められる。校長は、児童を取り巻く様々な課題を的確に把握するとともに、教職員の危機管理能力を高め、危機の未然防止を実現する組織体制づくりを推進していかなければならない。八戸市小学校校長会では、児童が安心して学習や生活に取り組むことのできる学校づくりを目指し、教職員の高い危機管理能力の育成と危機の未然防止を実現する組織体制づくりを推進するとともに、その実現に向けて校長が果たすべき役割について分析・考察する。

2 研究の概要

- (1) 「危機対応に関わる実態調査アンケート」の実施により八戸市内の小学校の状況を共有し、各校の課題を明らかにする。
- (2) 「危機を未然に防ぐリスクマネジメントの工夫」及び「被害を最小限に抑えるクライシスマネジメントの充実」を図るために、「危機管理マニュアル」及び「学校安全計画」の見直しと改善を組織的・計画的に進める手立てを模索する。
- (3) 教職員の高い危機管理能力の育成と危機の未然防止を実現する組織体制づくりを推進するための校長の役割を考察する。
以上のような内容について、八戸市小学校校長会が取り組んできた研究の経過と、研究を通して明らかになった成果と課題について発表する。

<メモ>

【発表内容に関すること】

○有効な取組

○疑問・改善

【自己の実践等に関すること】

◇「校長の役割と指導性」について、協議内容を簡潔にまとめると… 【キーワードかキーセンテンスで】

☆参考キーワード

危機管理マニュアル
家庭や地域との連携

学校安全計画
職員研修

見直し・改善
防災教育

組織的な取組
避難訓練

過去6大会の成果と前年度の課題

領域Ⅳ 危機管理 第10分科会 危機対応

<p>25 三重 大会</p>	<p>研究課題 児童の健全育成と危機管理の推進 視点1 いじめや不登校を生まない学校づくりの推進 視点2 危機管理に強い組織育成のための意図的・計画的な取組の推進 <input type="checkbox"/> 児童の健全育成には、未然防止と発生した事象への迅速な対応、再発防止の取組があり、いずれの場合においても、児童理解と情報を共有し、組織で対応し、継承することが重要である。 <input type="checkbox"/> 「報・連・相シート」や「個人カルテ」「引継ぎシート」等の活用は有効な取組である。</p>	
<p>26 埼玉 大会</p>	<p>研究課題 様々な危機への対応 視点1 いじめや不登校等への適切な対応 視点2 高い危機管理能力をもつ組織育成のための意図的・計画的な取組の推進 <input type="checkbox"/> 校長として「様々な危機」に対する未然防止のために、よりよい学校組織や子どももの自己有用感の向上に取り組むとともに、家庭や地域との連携などを進めるとよい。 <input type="checkbox"/> 危機への対処力を高める取組、クライシスマネジメントという視点から、迅速・適切な対応が重要である。</p>	
<p>27 山口 大会</p>	<p>研究課題 様々な危機への対応 視点1 いじめや不登校等に適切な対応できる体制の整備 視点2 高い危機管理能力をもつ組織・体制づくり <input type="checkbox"/> 危機に強い学校づくりを推進するために、リスクマネジメントとクライシスマネジメントという視点から、校長としての姿勢・考え方を構築しておかなければならない。 <input type="checkbox"/> 校長の基本スタンスの一例として、「(さ)最初の対応を慎重に行う」「(し)指揮を明確に行う」「(す)推測ではなく、正確な情報を得て対応する」「(せ)戦略をもって行う」「(そ)組織をまとめる」などを、まとめとして提示した。</p>	
<p>28 高知 大会</p>	<p>研究課題 様々な危機への対応と未然防止の体制づくり 視点1 いじめ・不登校等への適切な対応と体制づくり 視点2 高い危機管理能力の育成と未然防止の組織体制づくり・連携づくり <input type="checkbox"/> 子どもたちの生命と安全を守るためには、教職員間の児童理解のズレを縮める方法として児童一人一人の状況を把握するリストづくりやケース会議など、システムづくりの重要性を理解した。 <input type="checkbox"/> 校長として、「これで子どもたちの命が守れるか」という認識をもつことが大切である。また、危機への未然防止のシステムを構築し、それを効果的・機能的に動かすことの重要性を確認した。</p>	
<p>29 佐賀 大会</p>	<p>研究課題 様々な危機への対応と未然防止の体制づくり 視点1 いじめ・不登校等への適切な対応と体制づくり 視点2 高い危機管理能力の育成と未然防止の組織体制づくり <input type="checkbox"/> いじめへの適切な対応と未然防止においては、校長の足並みをそろえた取組が不可欠であるとともに、先入観をもたずに児童理解を深める客観的ツールの活用も有効である。また、校内外の研修による指導力向上が必要である。 <input type="checkbox"/> いじめ・不登校に対する校長の経営ビジョンが明示されていることは重要である。</p>	
<p>30 北海道 大会</p>	<p>研究課題 様々な危機への対応と未然防止の体制づくりにおける校長の在り方 視点1 いじめ・不登校への適切な対応と体制づくり 視点2 高い危機管理能力の育成と未然防止に向けた組織体制づくり</p> <p style="text-align: center;">成 果</p> <p><input type="checkbox"/> 豊かな心や人間性の育成を明確にした授業づくりがいじめ防止・不登校への適切な対応につながる。 <input type="checkbox"/> 学校と家庭・地域との情報共有、情報収集や関係機関との連携が大切である。また、校長がリーダーシップを発揮し、他校と足並みを揃えることも重要である。</p>	<p style="text-align: center;">課 題</p> <p>■教職員の危機管理意識を高め、普段からあらゆる場面で組織としての働きを大切にしていく。 ■校長は、組織体制に対する教職員の意識を高め、学校力を強化していくことが危機管理の第一歩であり、さらに関係機関との連携強化に努めていく。</p>

(各大会の集録より一部引用)